

李氏朝鮮時代郡県図の発達過程の編年的考察

- 忠清道における郡県図の形態的比較分析を一例として -

2024. 11. 11 卒業論文最終発表
中谷研究室 千年村研究ゼミ
1X21A066 小谷さくら

【レジュメの構成】

本研究の概要【序論】	参考文献
本研究の概要【本論】	図版出典

【目次】

凡例	第1段階 「文献調査」
【序論】	
第0章 本研究について	
0-1 研究背景	
0-2 研究の目的	
0-3 研究手法	
0-4 本研究の位置づけ	
【本論】	
第1章 朝鮮半島における地図作成の概要	
1-0 はじめに	
1-1 朝鮮時代の朝鮮半島の情勢	
1-1-1 朝鮮時代の行政区画について	
1-1-2 朝鮮時代の地方行政について	
1-2 朝鮮半島における古地図の分類	
1-3 朝鮮半島における古地図の発達	
1-3-1 朝鮮時代以前	
1-3-2 朝鮮時代	
第2章 研究対象について	
2-0 はじめに	
2-1 朝鮮半島における郡県図	
2-1-1 郡県図を研究対象に選定した理由	
2-1-2 郡県図の分類	
2-1-3 郡県図の概要	
2-2 研究対象の郡県図集	
2-3 小結	
第3章 郡縣地図の形式に関する比較分析	
3-0 はじめに	
3-1 地図記載情報の整理	
3-1-1 忠清道における郡県図の整理	
3-1-2 地図記載内容の整理	
3-2 分析手法の検討	
3-3 分析の手法の整理	
3-4 分析の結果	
3-4-1 地図の方向についての分析結果	
3-4-2 文字要素の方向についての分析結果	
3-4-3 地図の寸法についての分析結果	
3-4 小結	
第4章 考察	
4-0 はじめに	
4-1 地図の方向についての編年的考察	
4-2 文字要素における地図の編年的考察	
4-2-1 文字要素の形式の傾向についての編年的考察	
4-2-2 筆写関係についての編年的考察	
4-3 地図の寸法についての編年的考察	
4-4 郡県図の発達過程の編年的考察	
4-5 小結	
【結論】	
第5章 結論	
結論	
あとがき	
謝辞	
図版出典	
参考文献	
巻末資料	
結論	

【序論】

0. 本研究について

0-1 研究背景

筆者の所属する千年村研究ゼミでは本年より、東アジアの歴史的生存環境の立地特性を複眼的に明らかにするという目的の一環で、国内の研究を基盤に朝鮮半島における集落研究を開始した。朝鮮半島での集落研究を行うにあたって、韓国の歴史的空間構造についての理解を深めようとする方法を探りだしたが、本研究のはじまりである。

地域の歴史的空間構造の理解に有効な一つの材料として「古地図」がある。韓国の古地図について特筆すべきなのは、政府が作成した統一規格の地図やそれを模した民間が作製した全国地図が存在するなど、独自の地図発達が見られる点である。本研究ではこの地図同士の形態的比較分析を行うことで、韓国の古地図への理解を深め、朝鮮半島における今後の地域研究の一助とする。

0-2 研究目的

本論文では李氏朝鮮時代における郡県図の製作背景や書誌情報¹⁾が未だ明確でないことから、地図の形態的比較分析を通して韓国の古地図への理解をすることを目的とする。また、本研究は朝鮮半島における歴史的生存環境を有した集落の発見についての地域研究の一助とする。

0-3 研究手法

◆第1段階「文献調査」(第1・2章)

本研究で扱う「郡県図」について製作背景を把握する。
・朝鮮半島における地図作成の概要を把握(第1章)
・研究対象である「郡県図」の情報整理(第2章)

◆第2段階「分析」(第3章)

研究対象地図すべてに共通する地図記載要素(地図の方向・文字要素の方向と組方向・地図の寸法)を抽出し、各要素について比較分析する。
・地図記載情報の整理
・郡県図の形態的比較分析

◆第3段階「考察」

分析結果から地図の相互関連性について考察する。
・第2段階「分析」にて得た結果から検討
・第1段階「文献調査」にて得た情報から相互関連性について考察

◆「結論」

郡県図の発達過程を捉える。
0-4 本研究の位置づけ

韓国の古地図に関する既往研究の整理とともに本研究の位置づけを行う。本研究で行う郡県図の形態的比較分析がどのような有効性を示すのか客観的に述べることを目的とする。

①朝鮮時代の情勢についての研究、②朝鮮半島における地図作成についての研究、③郡県図についての研究に分類して整理した。以下にその代表的な文献を示す。

①『朝鮮時代の郡・県における邑治の施設配置の規則性：文献と地図の比較分析を通して』(白孝珍, 菊地成朋, 2016)：行政についての理解に有効である。
②『韓国の古地図』(李燦, 1991)：韓国の古地図の図版と書誌情報を多数納めている。
③『1872年郡縣地図の制作と絵画的特徴 - 全羅道地図を中心に』(キム・ソンヒ, 2015)：分析手法の検討に有効である。

郡県図について個別の地図の作成背景や分析結果を整理しているものの、同地域における複数の郡県図について編年的な考察を行っている研究は管見の限り見当たらない。また、本研究では郡県図の形態的比較分析を行うことで複数の郡県図の相互関連性を考察するため、地域比較は研究対象としない。

【本論】

1. 朝鮮半島における地図作成の概要

文献調査によって韓国における古地図についての概要を整理するとともに、本研究の対象である「郡県図」が韓国の古地図発達過程においてどのような立ち位置にあるかを把握する。

①朝鮮時代の情勢(1-1)と②朝鮮半島における地図の発達(1-2)をについて整理した。

1-1 朝鮮時代の朝鮮半島の情勢

■1-1-1 朝鮮時代の行政区画について

朝鮮時代は全国を八道(京畿道・忠清道・慶尚道・全羅道・江原道・平安道・黄海道・咸鏡道)に分割し、約330個余りの府・牧・郡・県を配置していた。府・牧・郡・県の定義については定義が困難であり、範囲も時代と共に変動することが分かる。よって本研究ではそれら行政単位の区別は行わないこととする。

■1-1-2 朝鮮時代の地方行政について

朝鮮時代の地方行政について整理しておくことで地図記載要素の理解を深めることを目的とする。

朝鮮時代の地方行政は、各地に地方守令と官僚要員を派遣して行われた。各地域に派遣された守令は、地域の実状を踏まえて政府からの指令に従って行政を遂行した。業務のうち最も重視されたのは、租税の納付や兵役の調役についてであった。考察にて重要な観点。

1-2 朝鮮半島における古地図の分類

研究対象である「郡県図」の発達過程に言及するにあたって整理しておくべき朝鮮半島の地図の概要として古地図の分類について整理する。



図1 韓国の古地図の分類
(左から天下図, 朝鮮全国, 道別地図, 国防地図, 都城図, 郡県図, 特殊図)

1-3 朝鮮半島における古地図の発達

朝鮮時代以前と朝鮮時代の2部に分け、朝鮮半島における地図の発達過程を整理する。

■1-3-1 朝鮮時代以前

朝鮮半島の地図の確立は三国時代以前に始まり、新羅統一後に行政整備のために地図が作成されました。この時期、地図は国家機密とされ、高麗時代には地理的知識が主に中国から導入されました。

■1-3-2 朝鮮時代

○朝鮮前期

朝鮮初期は、①北方領土の拡張(世宗朝には鴨綠江と豆満江に鎮が設置されるなど、北方に領土を拡張した)と②倭寇の襲来などの契機による国内行政区画の改編のため、国家が地図製作に力を入れた。また、地理誌と地図が結合した形式が生まれた。

○朝鮮後期

朝鮮時代前期の倭乱から引き続き、西洋文化の流入や明の滅亡など外交問題との直面から自国の領土を理解するための地図製作への関心も高まった。また、正確性を追求する地図の発達がみられた。18世紀以降の地域間流通の活発化、道路と交通の利用の増大、北方地域の開発などといった社会的変化が地図の流通を促進させ、地図の発達がさかんになった。

2. 朝鮮半島における郡県図の概要

研究対象である忠清道における郡県図についてその概要を確認する。

①朝鮮半島における郡県図(2-1)、②研究対象の郡県図集の概要(2-2)について整理した。

2-1 朝鮮半島における郡県図

■2-1-1 郡県図を研究対象に選定した理由

地図の形態的比較分析による朝鮮時代における地図発達過程の編年的考察を試みるにあたって、分析対象として適切な地図の選定を以下の基準から行った。

- 比較的に狭い範囲を地図に表現するため、地域の要素が他類型の地図よりも詳細に描かれている。
- 朝鮮時代の行政区分によって地図範囲が規定されているため、どの地図でもほとんど範囲が一致する。
- 複数地域で地図形式の編年的変化を検討するため、各地域の地図をまとめた図集の形式であること。

以上より、各地域についての「郡県図」を図集の形式で編集した「郡県図集の郡県図」が適当であると判断した。

■2-1-2 郡県図の分類

郡県図は作成・編集の方法をもとにいくつかの分類を行うことができる。

①編纂方法による分類

・単独郡県図 ・郡県図集 ・地誌に添付された郡県図

②刊行方法による分類

・筆写本 ・木版本

③技法による分類

・方眼式：方眼を用いて作製されたもの ・非方眼式

本研究の研究対象は前項で述べた通り「郡県図集」である。また、研究対象は全て「筆写本」である。

よって、本文中では以下の用語を用いて分類を行う。

・【**絵画式郡県図**】：非方眼式

・【**方眼式郡県図**】：方眼式

■2-1-3 郡県図の概要

郡県図は、朝鮮時代の各地域における自然環境、街路、行政施設などの情報が描かれた地図である。

○郡県図の製作目的

郡県図は18世紀に入ると利用主体の多様化、技法の発達などに伴って地図の流通量が増加した。利用目的は軍事や国家事業に限定されず、各地域の守令が自らの業務(主に徴税・調役)を遂行するためであった。また、民間では庶民用の小型地図帳が生産され、旅行用などで広く利用されたものと推定される。

○郡県図の製作主体

政府によって編纂された地図の作成には図画署が必ず関わっていた。朝鮮時代における郡県図は、地方の実情を把握しようとする地方官を主導して製作は地方画家を通じて行われた。

○郡県図の絵画的表現の沿革

朝鮮時代後期は屏風や掛け軸にも郡県図が増加し、絵画と深い関連性がある。鑑賞目的の絵画と地理情報の伝達を目的とする郡県図ではその表現方法に差異が生じ、独立して芸術性を発達させてきた。地図の中央に邑治が配置され、周囲を山が囲む絵画的表現は、伝統的風水理念に基づいて主要地形のみを表現する方式「山図形式」によるものである。理想的な配置に適合しない山脈は省略、縮小される。

2-2 研究対象の郡県図集

研究に使用した地図資料は、ソウル大学校奎章閣のホームページにて閲覧できる郡県図のうち、以下の条件を有するものを選定した。

- 忠清道地域の地図を含む。
- すべての地域において該当地図を検索可能である。

上述した条件から以下の7点の地図資料が選定された。

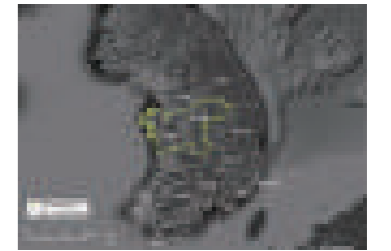
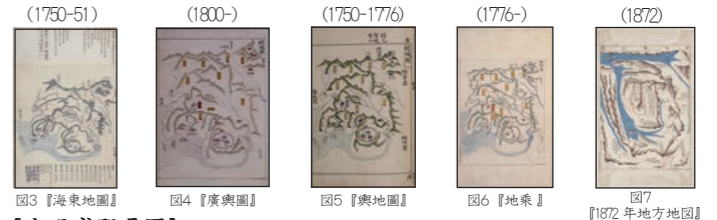
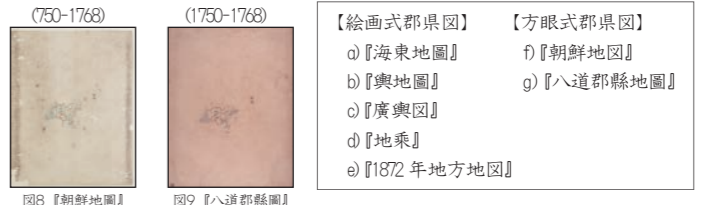


図2 忠清道の範囲

【絵画式郡県図】



【方眼式郡県図】



【絵画式郡県図】	【方眼式郡県図】
a) 『海東地圖』	f) 『朝鮮地圖』
b) 『輿地圖』	g) 『八道郡縣圖』
c) 『廣輿圖』	
d) 『地輿』	
e) 『1872年地方地図』	

3. 郡県図の形態的比較分析

第2章にて述べてきた研究対象資料の分析を行い、結果を整理する。

分析の過程は、①地図記載情報の整理(3-1)、②分析手法の検討(3-2)、③分析手法の整理(3-3)、④分析の結果(3-4)の4段階に分けられる。

3-1 地図記載情報の整理

■3-1-1 忠清道における郡県図の整理

各地域ごとに対象地図集7点の地図を収集し、リストを作成した。

■3-1-2 地図記載内容の整理

上記の項目は分析結果の検討や考察に共通して使用する地図の記載要素について以下の項目に従って概要をまとめた。

- 1) 地名
 - 1-1) 表題(府・牧・郡・縣)
 - 1-2) 界
 - 1-3) 面
- 2) 人工物
 - 2-1) 邑治
 - ①行政施設(客舎・衙舎(内衙)・倉・獄・軍器庫)、②祭祀施設(社稷壇・厲壇)、③教育施設(校郷)、④経済施設(倉)
 - 2-2) その他構築物
 - ①寺、②書院、③堂、④菴、⑤亭、⑥樓、⑦院、⑧烽臺、⑨堰、⑩鎮、⑪城、⑫その他
 - 2-3) 交通
 - ①驛、②津、③船泊処、④橋
- 3) 自然
 - 3-1) 山、峰、峙、峴、嶺、浦
 - 3-2) 川
 - 3-3) その他

3-2 分析手法の検討

地図記載要素の整理をふまえて、郡県図の形態的比較分析にはどのような分析が適当か既往研究をふまえて検討する。

本研究では郡県図の形態的比較分析を行うことで、書誌情報が明瞭でない各地図の相互関連性を検討し、韓国の古地図への理解の一助として、地図の発達過程を考察することを目的としている。各地図の相互関連性に言及するには、7点の地図集すべてにおいて共通する要素の分析を行う必要がある。分析のために、形態的な比較分析の項目を以下の通り、先行研究から検討した。

◆①地図の方向、②文字の方向・組方向

『朝鮮後期郡縣地圖における客観的記録と主観的表現：1872年頃の忠清地方地圖を中心として』(イ・ダンビ、2006)において、地図の方位を北にしたものが半分以上であることから、視点は主に北を正面から見た視点を基準に四方を見渡しながら地図が製作されたと考察している。また、『1872年郡縣地圖の制作と絵画的特徴 - 全羅道地圖を中心に』(キム・ソンヒ、2015)においても「一方視」、「二方視」として表現しており、視点や方位に注目することが地図を分析する上で欠かせないことが分かる。

◆③地図の寸法についての検討

キム・ソンヒ(2015)の研究では、詳細で豊富な情報を記録するために大型の地図で製作しながら、必要な地域の地図だけを携帯して移動するのに便利な形式をとっていることを述べている。
 以上より、①地図の方向、②文字の方向・組方向、③地図の寸法の要素を分析の指標にすることとした。

3-3 分析手法の整理

3-2より、本研究では7点の地図集の以下の要素の抽出によって編年的比較分析を行うことで、地図の発達過程の考察を行う。

- ①地図の方向
- ②文字要素の方向と組方向
- ③地図の寸法

右に分析表の凡例を示した。

文字の向き		組方向	
北向き	N	縦書き	■
北東向き	NE	横書き	■
東向き	E	判定不可	■
南東向き	SE	記号のみ	■
南向き	S		
南西向き	SW		
西向き	W		
北西向き	NW		

図10 分析表の凡例(文字の方向)

3-4 分析の結果

- ①地図の方向、
- ②文字要素の方向と組方向、
- ③地図の寸法

比較分析の結果より、①、②の分析結果において共通してみられた傾向として、分析結果の傾向より7点の地図は以下の3つに分類することができた。

- A 『海東地圖』・『輿地圖』・『廣輿図』・『地乗』
- B 『1872年地方地圖』
- C 『朝鮮地圖』・『八道郡縣地圖』

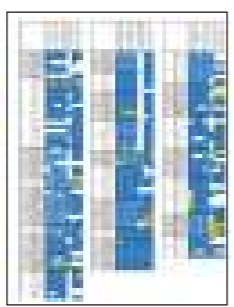


図12 分析表の事例

4. 考察

- A 『海東地圖』・『輿地圖』・『廣輿図』・『地乗』
- B 『1872年地方地圖』
- C 『朝鮮地圖』・『八道郡縣地圖』

3-4より、①、②の分析結果によって立証された上記A・B・Cの分類について以下のように考察できる。

①AとBは【絵画式郡県図】であり、Cは【方眼的郡県図】である。

⇒**地図の技法**

②A・CとBは製作年代が大きく離れている。⇒**製作年代**

③Aの分類は『海東地圖』と筆写関係にあるとされている地図集によって構成されている。⇒**筆写関係**
つまり、①**地図の技法**、②**製作年代**、③**筆写関係**による性質の違いであると言える。7点の地図の関係性を①・②・③をもとに図化した。

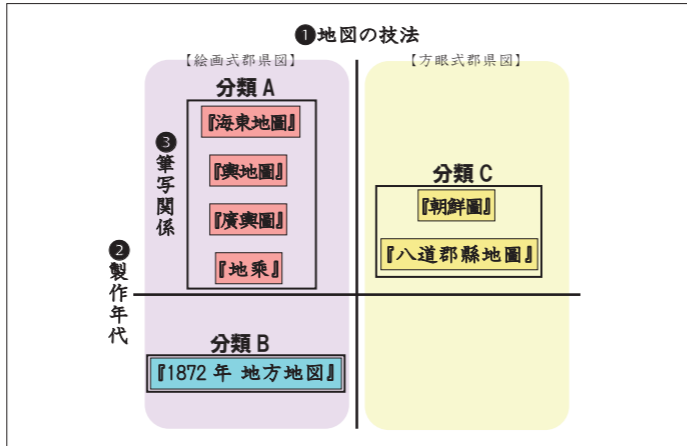


図13 研究対象地図の形態的分析による分類

考察では、①地図の方向、②文字要素の方向と組方向、③地図の寸法の各分析結果から検討し、①**地図の技法**、②**製作年代**、③**筆写関係**の関係性について解明していく。

4-1 地図の方向についての編年的考察

①**地図の技法**

分類C：北側に統一されている。

⇒**【方眼式郡県図】という地図の類型を確立。**

②**製作年代**

分類B：同じく【絵画式郡県図】であるAの類型よりも後世に描かれたものにも関わらず、Aよりも方向にばらつきがみられる。

⇒**地図の発達は通常正確で統一された形式に向かっていくものである**
⇒**地図発達史の逆行**

4-2 文字要素における地図の編年的考察

■4-2-1 文字要素の傾向についての編年的考察

①**地図の技法**

分類C：行政・祭祀・教育施設の記載がない。

⇒**当時の政策を象徴する要素として認識され、実用的でない。**

分類C：城・船泊処の項目で文字組に統一性が見られた。

⇒**軍事的側面・経済的側面による重要性**

②**製作年代**

分類B：文字要素の方向に統一性がない。

⇒**絵画式地図作成の基礎となった朝鮮時代後期に発達した真景山水畫によるもの。**

分類B：表題が横で統一されている。

⇒**漢字からハングル表記への緩やかな移行の表れ**

⇒**中国文化の踏襲から朝鮮半島独自の文化形成への意欲。**

■4-2-2 筆写関係についての編年的考察

筆写関係の考察は4-4にて示す。

4-3 地図の寸法についての編年的考察

『輿地圖』と『地乗』は縦横の寸法の値が近く、4-2-2にて作成した③**筆写関係**について**加筆可能**であり、4-4にて示す。

4-4 郡県図の発達過程の編年的考察

4-0 図12に4-1、4-2、4-3の考察をまとめたものが以下の図である。

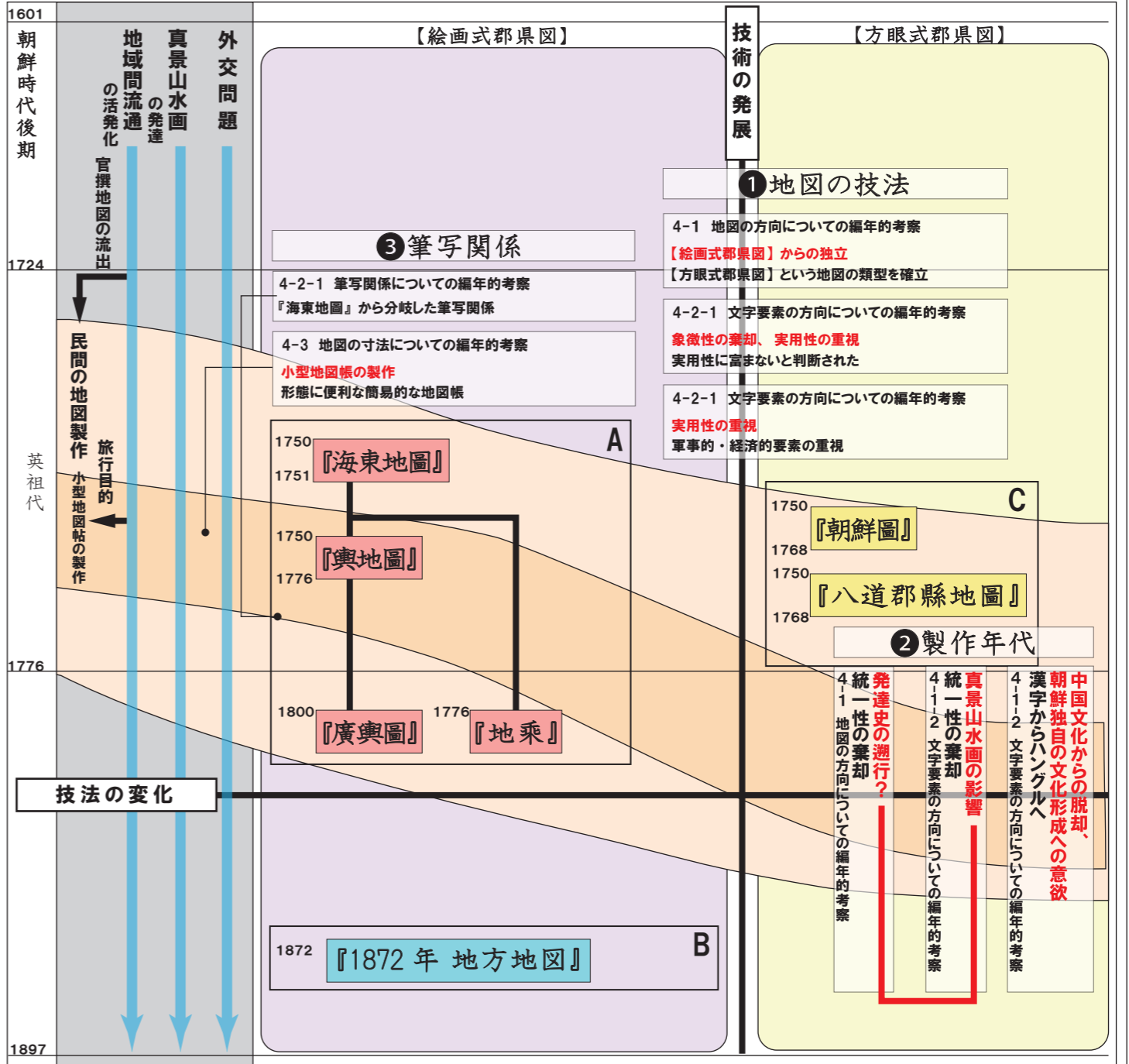


図14 李氏朝鮮時代郡県図の発達過程の編年的考察

5. 結論

本研究では、李氏朝鮮時代における地図の発達について、朝鮮時代の社会的背景をふまえて整理した。また、忠清道における7点の郡県図の形態的比較分析によって編年的考察を行い、性質の異なる郡県図の発達過程を一つに統合した。作成した発達過程から李氏朝鮮時代における地図の発達について、以下の特色が考察できた。

- 実用性と正確性を追求する発達過程**
- 中国文化から独立し、朝鮮独自の文化形成**
- 真景山水画をはじめとする絵画手法の発達**

以上のように絵画的地図から正確性が追求される科学的地図への一軸上の発達にとどまらず、性質の違いを超えて様々な起点を有する発達過程が交差するように地図が発達していった。

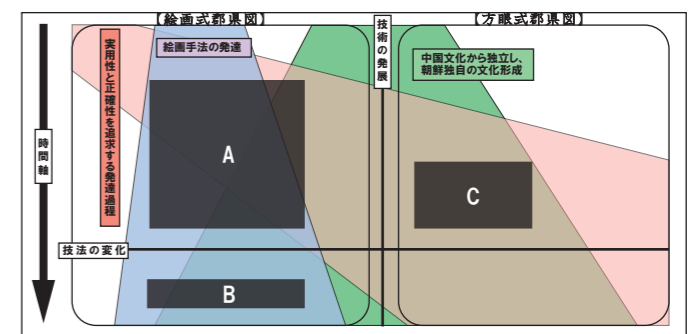


図15 李氏朝鮮時代郡県図の発達過程に見られる潮流

参考文献
 ※1 韓国における地方行政の変遷と現状 - 最近の地方議会構成の論議を契機として - (尹龍澤, 1984)
 ※2 『朝鮮時代の郡・県における邑治の施設配置の規則性: 文献と絵図の比較分析を通して』(白孝珍, 菊地成明, 2016)

※3 『朝鮮後期郡縣地圖における客観的記録と主観的表現: 1872年頃の忠清地方地圖を中心として』(イ・ダンビ, 2006)
 ※4 『1872年郡縣地圖の制作と絵画的特徴 - 全羅道地圖を中心に』(キム・ソンヒ, 2015)

図版出典
 図1: 筆者作成
 図2: 確井城作成

図3: 筆者作成
 図4: ~図9: ソウル大学校奎章閣のホームページ
 図10: 筆者作成

図11: 筆者作成
 図12: 筆者作成
 図13: 筆者作成

図14: 筆写作成